若 駒 躍 動 ～ 男子バレー部 優 勝 お め で と う

・・・　春高バレー福島県代表　３年ぶり 22 回目・・・

（※1）

民報　2022年（令和4年）11月24日（木曜日）　（22）

春高バレー 男子代表の相馬

体育館半壊、制限された練習

一丸で頂点

地震被災乗り越

23日に行われた第75回全日本バレーボール高校選手権大会（春高バレー）県代表決定戦を兼ねたFTV杯争奪戦（15面に関連記事）

優勝を決めると選手は雄たけびを上げ、喜びを爆発させた。王者奪還を果たした相馬は、今年3月の本県沖地震で体育館が半壊し、コートで練習ができない期間があった。

ただ、春高を目指す選手のモチベーションが衰えることはなかった。全国で勝つ目標に向け、全員が心を一つに鍛錬を重ねてきた。

苦しい時にチームを引っ張ってきた主将の新妻権選手（3年）は「応援される人間になろう」と礼儀作法や、ごみ拾いなどに率先して取り組んできた。中学時代、県選抜チームでともにプレーした佐藤琢也選手（2年）が「新妻選手のトスを打ちたくて相馬高への入学を決めた」と話すほど、チームメートから絶大な信頼を集める。

「今のチームで1秒でも長くプレーしたい」。共に苦境を乗り越えた仲間とともに全国の舞台での躍進を誓った。

チーム一丸で3年ぶりの優勝を勝ち取った相馬の新妻主将（1）ら

（※2）

選手の身長は、最高でも 175 cm と高校男子バレーボールでは小さい若駒たち。

にもかかわらず見事なチームとチームワークをつくり上げ優勝の栄冠を手にした選手たちと信成監督に拍手！！

（※3）

男子

相馬３年ぶり栄冠

福島商 ミス重なる

佐藤 楓 スパイク光る　相馬

春高バレー 県代表決定

第75回全日本バレーボール高校選手権大会（春高バレー）県代表決定戦を兼ねた第90回FTV杯争奪高校バレーボール選抜優勝大会は23日、福島市の福島トヨタクラウンアリーナ（田村市船引体育館）で男女の決勝を行い、男子は相馬が3年ぶり22度目、女子は郡山女子付が7年連続25度目の優勝を果たした。（22面に関連記事）

県バレーボール協会、県教育委員会などの主催。7月の県総体でベスト8に入った男女の計10チームがトーナメントで争った。

男女の優勝チームは来年1月4日から東京都の東京体育館で開かれる全国大会に出場する。組み合わせ抽選会は12月4日に開かれる。

【男子決勝・相馬－福島商】第2セットで、相馬の佐藤楓がボールを押し込む

3年ぶりに春高の県代表の相馬の栄冠をつかんだ。相馬のエース佐藤楓也（3年）は「ほっとした」と晴れやかな表情を浮かべた。

福島商の期待を背負って迎えた決勝戦。第1セットを先取したものの、第3セットは一進一退の息詰まる攻防の中で、持ち前の力強いスパイクで着実に得点を重ね、チームの主導権を武器に得点を積み上げた。

セットの中盤には、佐藤楓のスパイクや相手のミスで5連続得点し試合を決めた。福島商は強豪のサイド攻撃を軸に第2セットを奪うなど追いすがったが、相馬は井沢を中心としたテンポの良い攻撃で得点を重ねた。第4セットは一度放した流れを呼び戻せなかった。

【評】相馬が地力を見せ、ミス重なり、福島商

▽決勝
相馬 3（25 25 22 25）1 福島商
（25 18 25 23）

セッティングの中心となる佐藤楓はエースらしいプレーをしてくれた。他の選手もよく頑張っていた。全国大会でも、これまで通り練習の成果を発揮してほしい。

全国大会でも練習の成果を

相馬・信成健人監督

長身ではないが、チームメートから絶大な信頼を集める。

「今のチームで1秒でも長くプレーしたい」。共に苦境を乗り越えた仲間とともに全国の舞台での躍進を誓った。

中学時代、県選抜チームでともにプレーした佐藤琢也選手（2年）が「新妻選手のトスを打ちたくて相馬高への入学を決めた」と話すほど、チームメートから絶大な信頼を集める。

「応援される人間になろう」と礼儀作法や、ごみ拾いなどに率先して取り組んできた。

3年ぶりの優勝を勝ち取った相馬の新妻主将（1）ら

男子登録メンバー

【相馬】
◎喜多 新 ③
佐藤 楓 ③
横山 翔 ③
大橋 翔 ③
石井 晃 ③
群馬 晃 ③
佐藤 瑛 ②
遠藤 希 ②
佐藤 友 博 ②
田中 碧 ②
中地 空 ①
菊地 良 ①
武田 智 ①
伊藤 也 ①
稲村 裕 ①
渡辺 翔 ①
舞 ①

今年度、８月に四国で開催された全国高校総体（インターハイ 2022）にも出場しました。

（男子バレーボール会場は香川県）

（※1）（※2）（※3）　2022 年 11 月 24 日付け「福島民報」写真よりコピー転載。

（ 転載　12 月 1 日　村山 ）